

# 高麗島伝説

昔、蕨の港から北へ行くこと 60 キロの所に高麗島という小さな島があった。その島の住人に一人の信仰の厚い男がいて、一体の地蔵に朝晩お参りを欠かしたことがなかった。



ある夜、この地蔵が男の夢枕に立って「自分の顔色が変わった時は、この島に一大事変が起こる故、よく気をつけていて、すぐにこの島を逃れいでよ」とのお告げがあった。

人の良いその男は、この夢のお告げにすっかり驚き、一刻も早く皆に知らせねばと、とるものもとりあえず皆にふれまわったが、島民の中にはこの話を馬鹿にして相手にせぬ者もおった。



ある時、島の心善からぬ者がひそかに、その地蔵の顔を赤く塗りつぶしてしまった。



正直者の男はこれを見て大いに恐れおののき、用意の舟をくりだし、気心知れた仲間の者と共に、島の人達の嘲笑の声をあとに島を逃れてたが、しばらくして島を振り返ると島の姿は無く、すでに海中に没して再び島を見ることはできなかった。



島を逃れた一行は、波のまにまに漂いながら、今の大野浜にたどり着いて、携えてきた地蔵を今の宮田という所に祀り、皆はその近くに住みついた。

その当時飲用した水は「コーライ水」といわれている。

地蔵を祀った宮田には、以前は婦人が入ることをかたく禁じていた。

その後、住民たちはその土地に不便を感じて、蕨方面に移り住むことになったという。



地蔵は、その後宮田から今の蕨の大師堂のそばに移され、今も蕨の人達に大切に祀られている。高さ三尺ばかりの石仏で、首が長い地蔵である。

高麗島のあった所は「コーライ曾根」といわれ、格好の漁礁であり、今もなお陶器類を釣り上げることがあるという。

## 資料提供

久賀島地区公民館

所在地 長崎県五島市久賀町 217-3

電話番号 0959-77-2265

ホームページ <http://www.hisakajima.com/>